

2020年11月11日

各位

会社名 バルミューダ株式会社
代表者名 代表取締役社長 寺尾 玄
(コード番号：6612 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 佐藤 雅史
(TEL：050-3733-2595)

2020年12月期の業績予想について

2020年12月期（2020年1月1日～2020年12月31日）における当社グループの業績予想は、次のとおりです。

【連結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	2020年12月期 (予想)		2020年12月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年12月期 (実績)		
		対売上 高比率	対前期 増減率	対売上 高比率	対売上 高比率			
売上高		12,331	100.0	13.7	8,097	100.0	10,849	100.0
営業利益		1,274	10.3	18.9	919	11.4	1,071	9.9
経常利益		1,206	9.8	15.1	891	11.0	1,047	9.7
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益		826	6.7	30.6	603	7.5	632	5.8
1株当たり当期 (四半期)純利益		126円16銭		92円82銭		97円38銭		
1株当たり配当金		0円00銭		—		0円00銭		

- (注) 1. 当社は、2019年12月5日付で、普通株式1株につき100株の株式分割を行っていますが、2019年12月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益を算出しています。
2. 2019年12月期(実績)及び2020年12月期第3四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は、期中平均発行済株式数により算出しています。
3. 2020年12月期(予想)の1株当たり当期純利益は、公募予定株式数(1,235,000株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出し、オーバーアロットメントによる売出しに関する第三者割当増資分(最大215,200株)を考慮していません。

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

【2020年12月期業績予想の前提条件】

1. 当社グループの見通し

当社グループは、当社及び連結子会社（BALMUDA Europe GmbH）の2社で構成されています。製品の企画、デザイン、設計、開発、国内外での製品等の販売を軸に、「家電事業」の単一セグメントで事業を展開しているファブレス（自社工場を保有せず、外部の製造工場に製品の生産を委託する）メーカーです。

「卓越した創意工夫と最良の科学技術によって、どこにもなかった素晴らしい方法を創出し、人々の役に立つ」という企業理念（The Vision）のもと、家電という道具を通して、素晴らしい体験を社会にお届けすべく事業活動に取り組んでいます。

現在の日本経済を取り巻く環境は、米中貿易摩擦の長期化や、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大による内外経済の停滞等、先行きが不透明な状況となっています。

このような経済環境の下、空調関連やキッチン関連等の家電製品を中心に展開していますが、最も大切なことは「物より体験」であると考えて、製品開発に取り組んできました。今後も、心躍るような素晴らしい体験をお届けできる製品やサービスを提供していくため、新たな技術開発やデザイン性の追求、体験を訴求していくための積極的なプロモーションの実施を継続し、日本だけでなく、アジア地域、欧米等においても積極的に展開していきます。

今後、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のさらなる拡大により、サプライチェーンの世界的な停滞による部材調達難や活動制限による工場停止等、製品供給面において大きな支障等が発生した場合、当社業績に影響を与える可能性があります。現時点でその影響を合理的に把握することは困難であるため、業績予想には織り込んでいません。

このような状況下において、2020年12月期の業績は、売上高12,331百万円（前期比13.7%増）、営業利益1,274百万円（前期比18.9%増）、経常利益1,206百万円（前期比15.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益826百万円（前期比30.6%増）と前期比で増収増益を見込んでいます。

2. 業績予想の前提条件

（1）売上高

売上高については、地域別に、製品毎の販売実績、主要な販路の在庫状況と需要意向のヒアリング等に基づく販売予測により策定しています。

国内売上高予算の策定にあたっては、過去の販売実績や各販路の在庫状況等から、製品毎、販路毎に数量と販売金額を積み上げて策定しています。また、今後投入予定の新製品については、これまでに販売した製品（同価格帯、製品カテゴリー等）の実績、展開予定の販路及び展開店舗数をベースに数量と金額を予測し、積み上げて策定しています。

海外売上高予算の策定にあたっては、北米以外の地域については、各代理店の在庫状況や販売予測に基づく当社グループへの発注計画を基にして、数量と金額を積み上げて策定しています。また、今期より新たに進出した北米については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響等から、販売予測が見通しにくい状況ですが、デジタルマーケティングを中心に認知の拡大を図ってきており、これまでのECを中心とした販売実績に基づく販売予測により策定しています。

なお、2020年12月期第3四半期累計期間の実績については、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要の拡大を受け、国内売上高を中心に堅調に推移し、売上高は8,097百万円となりました。2020年12月期の業績については、第3四半期連結累計期間から引き続き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による巣ごもり需要が一定程度継続すると想定されること、これまで取り組んできたBALMUDAブランドや主要製品の認知拡大及び新製品の投入により、前期比で増収となる見込みです。その結果、2020年12月期売上高は12,331百万円（前期比13.7%増）を想定しています。

（2）売上原価、売上総利益

売上原価については、主な構成要素である製品原価金額の算定にあたり、各製造委託先より製品毎の原価

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）をご覧ください。また、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

見通し（材料市況や原価低減要因等）をヒアリングし、製品毎の売上数量に乗じて算出したものに、為替影響、減価償却を加味して策定しています。その結果、2020年12月期の売上原価は7,067百万円（前期比6.2%増）、売上総利益は5,263百万円（前期比25.6%増）を想定しています。なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の売上総利益は3,534百万円となっています。

（3）販売費および一般管理費、営業利益

販売費及び一般管理費については、主に広告宣伝費、販売促進費、試験研究費、人件費、その他経費によって構成されています。広告宣伝費及び販売促進費については、主に国内と北米におけるBALMUDAブランド及び製品認知の拡大等、事業規模の拡大を進めているため増加傾向にあります。また、試験研究費については、新製品開発や、次なる成長に向けた新製品開発に繋がるシーズの発掘に必要なコストを見積もって算出しています。さらに、人件費についても、開発、販売、管理体制のさらなる確立のために人材の採用を進めることで、企業運営、ガバナンスの強化を図っており、人員計画のもと、一定のコスト上昇を予算として計上しています。

2020年12月期の販売費及び一般管理費については、国内、北米を中心としたBALMUDAブランド及び製品認知の拡大、新製品の販売拡大に向けた広告宣伝費の増加（前期比34.8%増）及び販売促進費の増加（前期比36.8%増）、将来の新製品開発に繋がるシーズ発掘のための試験研究費の増加（前期比60.1%増）及び体制強化に向けた増員による人件費の増加（前期比10.0%増）を見込んでおり、それらを主な要因として3,988百万円（前期比27.8%増）を想定しています。その結果、2020年12月期の営業利益は1,274百万円（前期比18.9%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の営業利益は919百万円となっています。

（4）営業外収益・費用、経常利益

営業外収益、営業外費用は、原則として当期において発生が見込まれるものについて計上しています。営業外収益は、預金の受取利息等ですが、金額は0百万円と僅少です。また、営業外費用については、上場関連費用17百万円のほか、為替差損益、借入に係る支払利息やコミットメントライン組成に係る金融費用を見込んでいます。その結果、2020年12月期の経常利益は1,206百万円（前期比15.1%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の経常利益は891百万円となっています。

（5）特別利益・損失、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益は、利益計画策定時に発生が見込まれるものについて計上しています。また法人税額等については、利益計画に基づいて法人税等を算出し、併せて税効果会計による影響額を加味して算出しています。第3四半期連結累計期間の実績については、特別利益として、BALMUDA The Toaster 無償製品交換プログラム実施に係る生産物回収費用保険の受取保険金14百万円が発生しています。

その結果、2020年12月期の親会社株主に帰属する当期純利益は826百万円（前期比30.6%増）を想定しています。

なお、2020年12月期第3四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は603百万円となっています。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上

ご注意：この文書は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。投資を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（並びに訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なる場合があります。